

「妖精の羽」を福島から世界へ

(齋栄織物 株式会社)

会社概要(平成24年10月現在)

- 所在地:福島県伊達郡川俣町鶴沢馬場6-1
- 代表者:代表取締役社長 齋藤 泰行
- 資本金:1,600万円
- 売上高:1億6,000万円
- 従業員数:17名
- URL: <http://saiei-orimono.com/>

①事業概要

<絹織物製造>

福島県川俣町は古くから絹の生産地として名高く、特に薄手の絹を生産することで有名だった。齋栄織物は昭和27年に創業、長年の和装技術により培ってきた「先染織物」(糸の段階で精練、染色をした糸を使って織物を織る)の技術と、「極細絹糸」と「薄地織物」の独自技術により、薄く多様な色彩を作り出す絹織物を製造。

齋栄織物の先染絹織物は、透明感と光沢を持ち、また段階的な濃淡をつけたグラデーションを有し、他社にまねのできない気品と優美さを表現することが可能。この特性を活かし、商品の高付加価値化が実現できるウエディングドレス市場へ展開。

また、さらに国内外の競合相手との差別化を図るため、世界一薄く、軽い絹織物の開発に取り組み、商品化に成功。先染めの難しい極細絹糸の実用化のための技術研鑽が評価され、平成24年の第4回ものづくり日本大賞(伝統技術の応用部門)で最優秀賞の内閣総理大臣賞を受賞。

②海外展開概要

<北米、欧州への販路開拓>

齋栄織物では、約20年前からアメリカのブライダル市場向けに絹織物の輸出を行ってきたが、平成20年のリーマンショックの影響を受けて米国向け輸出が減少。これを機に、高品質な素材を適正に評価してくれる欧州アパレル市場への参入を目指し、JETROの支援事業を活用して欧州の展示会に出展を続け、有名ブランドへの輸出に成功した。

③取組の重点(活用した支援策を含む)

齋栄織物の成功の要因は何と言っても商品力。経済産業省の「地域資源活用事業」の計画認定を受けて、商品開発に取り組んでいる。

また、販路開拓にあたっては、JETROの「輸出有望案件発掘支援事業」の支援を受けている。平成23年のパリとミラノの商談会では、複数の有名ブランドからサンプルオーダーを受けたほか、平成24年には「ニューヨークテキスタイルミッション」にも参加し、新たな市場の掘り起こしに取り組んでいる。

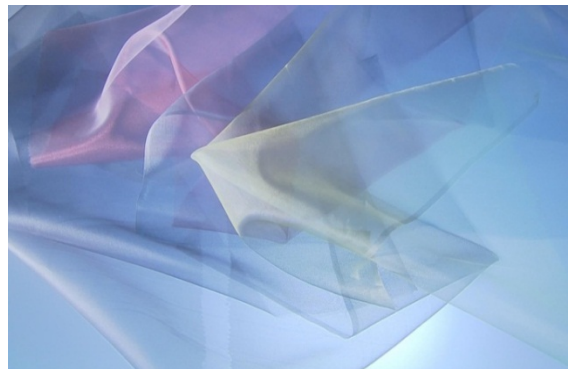
また、同じくJETROの貿易投資相談や専門家のアドバイスを活用し、貿易事務を社内で行い直接貿易を実現させている。

④今後の事業展開について

ものづくり日本大賞では、「フェアリー・フェザー(妖精の羽)」と名付けられた極薄の繊維が評価を受けた。これは髪の毛の6分の1の細さの糸を織物にしたもので、世界一薄い絹織物というだけでなく、機械による量産化を実現させた技術が高く評価された。

齋栄織物の欧州市場開拓はスタートを切ったばかりだが、今後は売上げに占める欧州向け輸出量を、現在の4~5倍にあたる10%まで伸ばすことが中長期的な目標。平成23年度3次補正予算事業の「農工商連携等による被災地等復興支援事業」にも採択され、平成24年度のグッドデザイン賞も獲得し、さらに販路開拓への取り組みを続けている。

トレンドの移り変わりの激しいテキスタイル業界で生き残っていくためには新たなものづくりが欠かせず、齋栄織物は自社の技術を強みに海外への販路開拓を続けていく。



齋栄織物の技術力の賜「妖精の羽」

(平成24年10月現在)

データ出所:東北経済産業局